

交流集会7「語り合おう！糖尿病に強い看護師育成研修の成果、継続と今後の展望」

6階東病棟

濱田 三紀

研修生への研修の成果は、どのようなところに現れているのか

* どのような目的で研修に参加したか？

現在、内科・泌尿器科混合病棟で勤務している。糖尿病患者さんの合併症を予防したいと糖尿病療養指導士の資格をとり日々看護しているが、糖尿病教育入院での看護師の役割は、知識の確認のみで終わっており、退院後の患者さんの生活を考えた看護が行われていない。フットケアの必要性を感じながらも実際ケアできていない。糖尿病療養指導士は年々増えているが、資格を活かした活動はできていない。また糖尿病チーム医療カンファレンスを月に1回開催し、チームでより良いケアの提供に取り組んでいるが患者さんに還元できていない現状がある。糖尿病教育入院の見直し、フットケアの導入、チーム医療の充実のためには、まず自分自身が知識、技術を高める必要があると考え研修に参加した。

* 研修で学んだことは、現在の活動にどのように活かされているか？

【研修での学び】

患者さん模擬体験として、自己血糖測定、インスリン注射、内服、食事記録、運動療法を1週間続けたことで、内服薬を飲み忘れるのはあたりまえ、毎日運動なんて無理、カロリー計算は大変と実感し、患者さんの見方が変わった。療養生活を送っている「患者さんてえらい」、食事療法、運動療法、薬物療法、こちらからのおしつけでなく、患者さんができる方法を一緒に考えようと意識が変化した。実務研修では、患者さんと深くかかわるなかで、退院後の生活に応じた、患者さんが持っている力を活かす援助を考えた。

そして忘れることができないのは、糖尿病教育入院の患者さんに糖尿病教室を開催した際、シックデイについてわかりやすい説明をと企画したが、緊張と説明することが精一杯で、その日初めて教室に参加した患者さんへの配慮ができなかった。患者さんは、「シックデイより糖尿病でどうして血糖があがるの」とシックデイについては聞く耳をもたないという態度であった。患者さんに辛い思いをさせたことを反省し、翌日よりその患者さんを受け持たせていただいた。批判的であった患者さんの思いをひたすら傾聴した。患者さんの言動には一つ一つ意味があり、受け止め理解していくことで信頼関係を築くことができた。また、教室に来ている患者さんのレディネスは様々で、まず患者さんへの心配りをし、何でも話せる雰囲気作りが大切だと痛感した。

この経験から、失敗から学ぶことも多いと、チャレンジ精神が芽生えた。

【患者さんへの支援の変化】

インスリン注射、自己血糖測定指導時、まずできているところを褒め、その後できていないところについて説明するようになった。

患者さんから、「学生時代以降初めて褒められた」「観てもらってよかったです」と指導時患者さんの笑顔がみられるようになった。

以前は、インスリン注射指導時は、「看護師の監視下」と指示書に記入されていたが、「見守り」と記入するようになった。他のスタッフも「見守り」と記入するようになり医師も「見守りで」と指示を出すようになった。患者さんへの暖かな言葉がけが病棟のムードを和やかに変えた。インスリン注射指導を統一するために、他の病棟の研修生とインスリン注射手技チェック表を作成し使用している。

(糖尿病教育入院について)

糖尿病チームでパンフレットを作成し、フットケアを導入した。理学療法士と足関節、足趾関節背屈角度などを入れた共同のチェックシートを作成中で、フットケアの連携をはかる予定である。血糖自己測定開始時は、初回の指導を検査技師が行い、その後の患者の手技獲得状況を看護師がチェックシートを用いチェックし、検査技師と連携している。糖尿病教育入院パスの見直しを行っており、チーム全体で、患者さんの変化についてわかりやすい評価方法を検討しており、チームで取り組む力が強まった。

(継続看護)

糖尿病教育入院患者さんの退院後、外来日に話を聴き、退院後の生活への援助を開始した。

* 研修後に、現場の看護の質は上がったか？またなぜそう思うか？

フットケア導入にあたり、フットケアチェックシート、足浴手順を作成した。音叉、モノフィラメント、腱反射の実技講習を4回実施し、病棟ナース全員がフットケアをできるようになった。フットケア研修に糖尿病療養指導士のスタッフ2名と一緒に参加し、技術の向上に努めている。

結果、フットケアを実施した患者12名中7名に白癬があり皮膚科受診し治療を開始した。糖尿病教育入院患者さんから導入したが、教育入院でない糖尿病患者さん、リウマチ、透析患者さん、に対してフットケアを行っておりフットケアに対する看護師の意識が高まった。

* 研修で学んだことを生かしきれていないことがあるとすれば、それは何か？

外来看護

* また、それはなぜか？どのような解決策を希望するか？

内科外来は4科あり、診察には看護師はついておらず、フットケアをできるスペースはない。他の場所で面談、ケアできる場所の確保が必要である。

おわりに

研修に参加し、共に学んだ仲間との出会いがあり、困った時にはいつでも相談できる、素晴らしい指導者の方々と出会った。そして、昨年度は研修生だったが、今年度は、研修生を受け入れた。指導者というよりは、仲間と一緒に学ぼうという思いが強く、これからも皆で質の高い看護を目指しディスカッションしていきたいと思う。